

島原半島ジオパークにおけるガイド養成

Report on Geopark guide training course in Unzen volcanic area geopark

江越 美香 [1]; 杉本 伸一 [2]; 吉田 大祐 [3]

Mika Egoshi[1]; Shinichi Sugimoto[2]; Daisuke Yoshida[3]

[1] 島原半島ジオパーク推進連絡協議会; [2] 島原半島ジオパーク推進連絡協議会; [3] 雲仙岳災害記念館

[1] Unzen volcanic area Geopark Promoting Office; [2] Unzen Volcanic Area Geopark promoting office; [3] Mt.Unzen Disaster Memorial Hall

<http://www.city.shimabara.lg.jp/section/shokan/geopark/>

島原半島では、火山噴火災害、歴史、自然などをガイドする団体が複数あり、現在も活発に活動している。しかし、ジオツアーにおいてジオサイトの説明を行う知識を持つガイドの数はまだ少ない。

平成20年9月から平成21年3月にかけて、島原半島ジオパークではガイド養成講座を行った。講座は毎月1回とし、座学3回、野外巡検4回の計7回実施した。座学については、平日夜間の開催となるため、各回同じ内容の講座を3市でそれぞれ行った。7回の講座の講師は、島原半島で一般向けの自然観察会などを行っている6名が担当した。地球科学ばかりではなく、歴史、動植物など、島原半島について広く学ぶとともに、野外活動を行う上でのマナーについての教育も行った。また、野外巡検を多く取り入れることで、現場でガイドにあたる注意点を実践的に学ぶことができる内容とした。

当初、定員を45名としていたが、80名を超える申し込みがあり、地元住民の関心の高さが伺われる。また、観光ボランティアや災害の語り部ボランティアなどとして現在活躍しているボランティアの登録も多い。このようなボランティアの講座受講は、これまで行われてきた観光中心のガイドに加えて、地球科学の知識を取り入れたガイドが行われることが期待できる。

今回のガイド養成講座は、初年度ということもあり、講師の話を聞くことが中心であった。受講者も興味があってガイド養成講座に申し込んだが、実際ガイドをする自信がないという声も聞かれる。講座終了後の実際ガイドとして活動する人材を確保するため、島原半島ジオパーク推進協議会では、ガイドをする際必要な情報やガイドの話のネタを集めた『ガイド必携』の作成を進めている。今後は、さらに深い知識を身に付ける上級講座、特定の地域のガイドに特化した講座、人前で実際に話をする実践的な講座などの開講や受講修了者の認定制度などを含めて検討する必要がある。